

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 11月号

2017年11月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：長原野（南部病院）

第1回 精神医療とパスを学ぶ in 沖縄 参加報告

豊見城中央病院 伊禮 尚恵

9月30日、講師に北里大学医学部精神科学 大石 智先生、臨床では独立行政法人 国立病院機構 琉球病院 木田 直也先生をお招きし、「第1回 精神医療とパスを学ぶ」をテーマに、沖縄県立精神病院で研修会が開催されました。

これまで精神医療の現場では、患者の個別性、診療過程の閉鎖性、診断・治療のガイドライン作成の遅れなどの課題から、“パスは馴染まない”との見方が多かったと言われていました。しかし、入院患者のうち高齢者の占める割合が増加傾向にあるなかで、速やかな回復には精神科と身体科の連携が不可欠であるとの見方が強くなっています。そのツールとなるのが、クリニカルパスとされています。クリニカルパス演習を通じて、精神医療の経験が無い私でも、理解し易い内容となっており、可視化・標準化されたクリニカルパスの活用は、多くの成果が期待されると思いました。

Ⅱ部では、「病と付き合いながら、地域で暮らし続ける」を目標に、「退院支援、退院調整、在宅移行の課題」について、精神科・身体科・介護スタッフが共に膝上円卓を使って、グループワークを行いました。オープンマインドなカフェ形式であったため、普段は“なかなか言えない。でも言いたい”とすることも、活発な意見交換ができて、とても良かったと思います。

例えば、「身体科との連携」のテーマでは、精神科側の課題として話が出たのは、「身体症状の変化になかなか気づけない！」「地域における（身体科も含め）、精神科疾患への理解が低い！」「精神科患者の退院調整（リハビリ転院など）が困難」「身体症状が落ち着いていないのに、精神科転院を少し強引に勧める」「介護を要する精神科患者の受け皿が少ない！！」など…。

身体科側からは、「常勤の精神科医師が居ないため、薬剤調整が困難。採用薬も少ない」「身体的にある程度落ち着いている（許容範囲内）のに、受け入れてもらえない」「スタッフが慣れていない」など様々な意見があげられました。総合討論では、「精神疾患をお持ちの方を地域で支えるには」どうしたら良いのか、話し合いました。

CONTENTS

第1回 精神医療とパスを学ぶ in 沖縄	1
めだかの学校	
「障害福祉サービスの社会資源と就労支援」	
	2
新入会員紹介	3
理事会議事録	4
はいさいワーク	6
コラム	7

た。精神疾患・病状への理解のため、「啓発活動（研修会）の必要性」「アウトリーチ」「居場所づくり」の重要性について話しがあがっていました。

結論として、精神医療の現場でも、介護、福祉、行政などの多くの人々が、チームで関わることが求められている。相互の役割を理解したうえで、協働することの大切さを再認識できた会であった。元々、医療機関は地域から派生したもの。地域と隔たりがあってはならない。「社会資源の一つでしかない」という原点に立ち返り、もっと地域へ責任を持って、積極的に関わっていく姿勢が大切であると思いました。まさに膝上の円卓が、これからの真の連携を体現していると思えてなりません。強い信念のもと、実践した姿勢は、地域からの信頼感にもつながりますし、何より自分への自信にもつながります。

さあ今日から「地域にコミット」していきましょう！！

次回、開催のフォローアップ研修は、平成30年2月10日（土）になります。多くの方のご参加をお待ちしています。



めだかの学校

「障害福祉サービスの社会資源と就労支援」

参加報告

沖縄協同病院 仲村 和馬

9月9日（木）中部徳洲会病院にてめだかの学校が行われました。今回は「障害福祉サービスの社会資源と就労支援」というテーマにて、アソシアの就労支援員安里氏と計画相談員新里氏を講師にお招きし、障害福祉についてご講話頂きました。

就労支援では、障害のある方の一般企業への就職を支援し、大きく分けて職業訓練、社会人基礎力、就職準備・定着の3つを行っています。職業訓練では利用者本人の基礎体力や集中力の構築、個人の得意不得意の確認、得意の強化を行います。社会人基礎力では、ビジネスマナーの会得、自己理解の促し等を行います。就職準備・定着では就労支援員が利用者本人と企業との間に入り、一般企業への就労を支援します。障害のある方が就職する為には、ハローワークへ登録時に主治医の意見書を要します。また、アソシアでは本人の取り扱い説明書の作成をし、企業と個人の共通理解を促します。就職後は、徐々に介入頻度を減らし、定着を促す事で就労へと繋がります。

計画相談は介護保険で言うケアマネと同じ立ち位置で、障害福祉サービスの利用調整を行います。障害福祉サービスは介護給付、訓練等給付、自立支援医療、地域相談支援、計画相談支援があり訓練等給付は前に記載した「就労支援」で、計画相談支援（計画相談）は介護給付の調整を行う事になります。サービス利用を行う為には、まず障害区分認定が必要です。利用者本人が住んでいる市町村へ申請を行い、介護保険同様に認定調査、一次・二次判定、勘案会議を経て認定が下り、サービス調整となります。その為、支給決定となるまでに1ヶ月以上掛かります。また、暫定でのプランニングが出来ない為、早めの申請が必要で社協等の地域資源の活用が求められる側面があります。

障害福祉についてサービス利用の流れから、事業の種類、支援員の活動まで事例等を用いながら講話して頂きました。貴重な講話有難うございました。

☆ 新入会員紹介 1 ☆

牧港中央病院 中村 海由

皆様はじめまして、今年の3月から入職いたしました牧港中央病院地域連携の中村海由と申します。

研修や勉強会などを通して、医療ソーシャルワーカーとしてのスキルを高め、患者様やご家族、多職種の皆様との信頼関係を築いていきたいと思っております。

既に、お電話や研修などで関わってくださった方も多くいらっしゃると思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。ちなみに趣味は裁縫で、スタイやおくるみなどを作製しています。

ご出産予定の方はぜひ中村までご一報を(笑)

☆ 新入会員紹介 2 ☆

エメロードてだこ苑 伊禮 典恵

初めまして、「老人保健施設 エメロードてだこ苑」で支援相談員をしています、伊禮典恵と申します。支援相談員5年目になりますが、日頃、連携業務の中で関わりある、医療ソーシャルワーカーの職務理解と専門性を高めるための育成プログラムに魅力を感じ、会員になりました。

前職は、診療情報管理士として従事していたため、各種医療機関の役割や医療ソーシャルワーカーについて、理解していたつもりでした。ですが、初任者研修で理論から実践まで学ぶなかで、“短い入院期間で、幅広い患者の相談対応している医療ソーシャルワーカーは、とても凄いな”と驚かされました。また、活発な意見交換が出来たことで、「顔のみえる連携」の大切さ、繋がることの意義について、再認識することができました。今後も積極的に研修会に参加し、多くのことを学んでいきたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願い致します。

☆ 理事会議事録 ☆

開催日時	2017（平成29）年10月16日（月）18：30～20：00
場 所	県総合福祉センター
出席者	島袋、樋口（司会）、當銘、仲地、又吉、新垣（記録）、石郷岡、安慶名、伊礼、 秦、長、望月、山城、崎浜、東江、

【拡大理事会】

【平成29年度 入退院支援連携デザイン事業実施計画について】

目的

この事業は、市町村の地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを支援するため、目的を下記のとおりとする。（1）退院支援連携の窓口となる医療ソーシャルワーカー及び退院調整看護師を対象とした専門研修の実施。（2）入退院支援連携を実施するうえで市町村が必要とする知識に係る研修会、学習会、意見交換会等の実施。（3）在宅ケア支援者・医療機関連携による入退院支援連携に係るモデル事業の実施及び在宅介護と医療の連携に係る報告集の作成。（4）在宅介護・医療専門職を対象とした在宅ケア（終末期含む）に係るハンドブックの見直し及び改善。＊（1）について、看護に係る研修は看護職代表者等の意見を考慮して計画実施する。（3）について、有識者や専門職代表によるサポート体制を整備し実施する。（4）の取り組みについて、ワーキンググループを結成し、実施する。研修内容、在宅医療と介護の連携に係る報告集及びハンドブックの内容について、県の承認を受けるものとする。

（1）専門研修

第1回 日時：平成29年10月28日（土）10：00～17：00

→延期：1/20 場所：嘉手納町中央公民館 未定

第3回 日時：平成30年1月13日（土）13：00～17：00 場所：沖縄県教職員共済会館 八
汐荘 講演：「多職種と協働する入退院支援：多職種の視点を言語化するカンファレンスの実際～各職
種サマリーを活用した模擬カンファレンス～」 講師：片岡 靖子氏（久留米大学 准教授）

第4回 日時：平成30年2月11日（日）13：00～17：00 調整中 場所：未定 講演：講演：
「臨床倫理の視点で意思決定支援を考える ～QOLの向上を目標とする入退院支援とは～」 講師：金
城 隆展氏（琉球大学医学部附属病院）

（2）入退院支援連携を実施するうえで市町村が必要とする知識に係る研修会、学習会、意見交換会

第2回 日時：平成29年12月23日（土）13：00～17：00 場所：浦添市産業振興センター・
結の街 講演：「住民のどう生きるかを支えるエンパワメントについて ～自分自身の＜笑顔＞とくちか
ら＞を活かす～」 講師：安梅 勅江氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授）

第5回 日時：平成30年3月17日（土）13：00～17：00 場所：沖縄県市町村自治会館 講
演：（仮）「現代社会の考え方に適した医療の本質的理解（医療基本法の考え方）と地域包括ケアシ
ステムのとらえ方について」 講師：漆畑 真人氏（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病

院) 講演：(仮)「地域で活動する防災士からみた在宅医療と介護の連携について」 講師：野上 美智子氏(うすき女性防災士連絡協議会 会長) *在宅医療・介護連携推進事業に係る意見交換会・見学会～医療機関の機能と入退院支援連携の実際について～ 開催：平成29年10月～12月、各圏域1～2回開催、午前または午後 場所：各圏域内(貸し会議室・市町村会議室・医療機関会議室等)

(3) 在宅ケア支援者・医療機関連携による入退院支援連携に係るモデル事業及び在宅介護と医療の連携に係る報告集の作成 *在宅医療介護連携推進事業：入退院支援連携に係るモデル事業(事例検討会) 開催：平成29年10月～12月、1事例：1～2回開催 場所：各圏域：貸会議室・市町村会議室・病院会議室等 内容：別紙実施要領参照 *在宅医療と介護の連携報告集の作成 目的：沖縄県における在宅医療と介護の連携に関して、特に入退院支援連携に関する実践事例から個別事例の普遍化や地域課題につなげるなどの理解を深める。 編集方針：①事業(3)で取り組まれた事例を、標準的な事例の纏め方様式で作成する。②入退院支援連携ガイドラインに沿った入退院支援連携の方法に準じて整理する。③各専門職の視点でポイントを整理する。④本人・家族からのフィードバック内容を記載する。⑤在宅医療と介護連携の困難を引き起こしている要因別に整理する。

(4) 在宅介護・医療専門職を対象とした在宅ケア(終末期含む)に係るハンドブックの見直し及び改善。「平成29年度入退院支援連携デザイン事業」ガイドライン編集WG委員会 開催：年1～2回 場所：未定 *平成28年度試行版の運用(各圏域研修等でのテキスト、各医療機関・CM支部での試行等) *職能団体、医療機関等からのヒヤリングと改訂 *本印刷と配布、ホームページへの掲載

【その他】

- ・他専門職団体の事業や医師会コーディネーター事業との分担を明確にして欲しいこと。
- ・予算が縦割りで、市町村や専門職が協働できない事業展開は、本来の地位包括ケアシステムの理念に反すると考えていること。
- ・次年度は専門職が各圏域で具体的な事業の担い手になることが多いので、県全体事業の整理が必要であること。
- ・また、当協会が主催する事業が重なっているので、研修会はこれまでと同様の規模や回数は実施困難、大きな成果物作成も困難であること。

【次回の理事会】

日時	11月27日(月) 18:30～
場所	県総合福祉センター
担当	司会：新垣 書記：島袋 連絡係：秦

☆ はいさいワーク ☆

No. 85 大浜第二病院

事業所名	医療法人おもと会 大浜第二病院
応募資格	詳しい情報は直接お問い合わせいただくか、当協会ホームページをご参照下さい。
雇用形態	非常勤
勤務時間	月休9日制（土曜半日出勤有・日祝祭日休み） 8：30～17：30
担当者	大浜第二病院 総務課 担当：事務部長 諸見里 安英
連絡先	098-851-0103

No. 86 ハートライフ病院

事業所名	社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
応募資格	社会福祉士免許取得者または、社会福祉士免許取得の見込みの者 協調性があり、チームでの業務に貢献できる者 Excel、Word等のパソコン操作ができる者 30歳以下（長期勤続によるキャリア形成を図るため）
雇用形態	正職
勤務時間	8：30～17：30 日曜日・祝祭日 年間休日数110日前後※月8～10日休み
担当者	社会医療法人かりゆし会 法人事務局人事課
連絡先	098-895-3255

No. 87 ちゅうざん病院

事業所名	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院
応募資格	社会福祉士、社会福祉主事
雇用形態	雇用期間の定め無し
勤務時間	8：30～17：30
給与等	当法人の規定に準ずる
担当者	ちゅうざん病院 事務部 仲栄真
連絡先	098-982-1346

関心のある方は各病院のMSWにもお問い合わせくださいね(^^)

コラム

「海外からの観光客の緊急入院に伴う退院支援」

様々な業界がグローバル化している現代、医療業界も柔軟に対応できるよう、色々な取り組みがなされているお話もよく耳にしますね。

私の勤める病院はそこまで特化した機関ではありませんが、患者さんの中にもちらほら海外の方を見かけます。県内に嫁いだ方、出稼ぎ、留学…色々な背景を持っていらっしゃると思いますが、その中で旅行客の緊急ケースに関わることが何度かありました。

沖縄観光を楽しみにやってきた矢先の不運…。言葉も通じない土地でのストレスも大層なものだと思います。Lさんもその一人でした。

帰国予定日の2日前に呼吸困難で緊急受診、心不全と診断されたのですが、原因は既往にある腎不全が影響しているとのこと。状態も悪かったためICUに入室。そして主治医からは、症状改善のためには透析導入も必要になると説明が…。踏んだり蹴ったりな状況にご家族も呆然…。今後の意向を確認したところ、帰国の便が決まった曜日に2便ほどしかないため、週末の便には退院してかかりつけ医に転院したいとのこと。当時医師からは厳しい回答でしたが、残り数日で最低限の透析を行い、酸素を繋げた状態で帰国することが目標となりました。

そこから怒濤の一週間。退院調整看護師と協働し、飛行機の手配中心にご家族と転院調整。必要書類を医師に書いて貰ったり、航空会社との細かい情報共有をしたり、ルートの確認をとったり etc 希なケースなのでこれで良いものか、不安と戦いながらどうにか手配までこぎつけました(^_^)

幸いご本人も順調に回復し、酸素もNPPVからネーザル1Lまで落とすことに成功！医師の的確な治療の甲斐もありまして、無事退院できました。

海外のケースに関わる度に思うのですが、意外と空港会社との連携が難しいですね。まだまだグローバル化するには改善点が多いな～と…。それ以上に、病棟で不安そうにしているご本人やご家族を見ていると、自分自身も広い視野を持って勉強を続けて、患者さんにもっと寄り添った支援が行えるようにならなきゃと、考えさせられます。まずは英語から、勉強し直そうかな・・・。

Y・H

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

☆ 編集後記 ☆

先日の2週続けての台風に週末をつぶされた方も多かったのではないのでしょうか。ハロウィーンを過ぎると一気に年末モードですね。インフルエンザも流行りだし、年賀状にお歳暮などなど…より一層気忙しくなりますが、会員の皆さんもご自愛くださいね。

公私共にお忙しい中、原稿を快くお受けいただきました皆様、本当にありがとうございました。